

この期に當り、工場法の實施を未だ見ぬ臺灣なればこそ、以上を提案する次第。

○ 南方的性格の弱點は脆さにある。今後の課題は、北方的強韌性が如何に取り入れられるかに懸る。臺灣の使命は、南北兩面にある。

○ 五六年前、初めて渡臺した折、官廳の事務用器具、特に机、椅子の全く内地と同じ規格の窮屈さに驚いた。何故臺灣といふ足元の地を考慮に入れぬものかと不思議だつた。

○ 或る少年の話

櫻の花瓣が四枚だといふこの少年に聞けば彼が日常使用してゐる茶椀に、四枚の花弁を持つ花と櫻の歌が書いてあつたと云ふ。生活必需品の殆んどが、内地から入つてゐたところのこと。

○ 最後に臺灣の工藝進展及び工員育成に多大の努力を盡された井田憲次氏、山中公氏、生駒弘氏並に教育界の木原義行氏の卓見に敬意を捧げ度い。  
(筆者は理研電化工業囑託)

## 臺灣の生活工藝

小池岩太郎

月 日

稻がたわわに實つて、一寸した水溜りにも思ひがけなく物憂げに水牛が浮いて、白鷺が紙屑の様にとんで、竹の屋臺では甘そうな、熱い、冷い食物が目白押しに競合つてゐるのです。

此方に參つてからもう三ヶ月になります。此の様な風景の中から覗いてきた臺灣工藝は、沖繩のあのしつかりと根を張つた、それは常に切實な生活の中に色取つて來られた歴史が齎す自然と生活の深い結合の所産、……そ

の様なものからは遙かに遠い何かつるりとした根の浅い感じで、そこいらの物が全てに差木か接木の様な頼りなさに見出され、私の様な苔むした毛深さを喜ぶ男には毎日の明け暮れに不圖佗びしい瞬間を感じて或る空しさにおそはれる事がしばしばです。

その様な思ひの一方で、此れは並々ならぬ事と、私に課せられた使命を今更に振りかへつて覺悟を新に致します。島産の漆で餅(堆錦餅)も練られる様になりました。顔料も土地の物の研究に手をかけました。全てに臺灣に根をおろした技術と致し度く、此れは一生をかけて貫ぬき度く存じております。

今迄はとも考へられなかつた此空氣や、光や、自然のそうした呼吸と私との間隙の様なもの、此れを寸刻も早く埋め度いと念じてをります。

此の様な手紙を先發の○君から受取つてゐた。

沖繩があの猛烈な雨風に叩かれて、耐え、又此の臺灣より一層直接的である日光に乾されて、耐え、此の上は寸度たりとも變形を許

さぬまでに彫琢された自然に、人の營みは、その造型分野は、極めて素朴な姿なりに一應の搖ぎない調和の域に達し、一層根太く生へぬいたもので有つた事が回顧される。その造型性の問題も、既に生活技術の根底的展開に待つのでなければ抜き差しならぬ處に來てゐたと思はれる。

臺灣の明け暮れに何か不圖侘びしく感ぜられると書いて來た○君の感慨はそうした沖繩に育つてきた君として一際深いものがあつたであらうと思ふ。

臺灣の生活工藝を考へる時、私共はあの裸電光のもとできら／＼にひけらかされた土産物類には先づ目を伏せざるを得ない。

數條の小川を挟んで、赤煉瓦の家が迷路を作つて並び、鶯鳥を追ふ童子のある風景、そして粥茶碗、此れを臺灣風景と稱し、工藝と呼ぶに何か納得に充分でないといふは潔癖に過ぎようか。

そして内地風の生活が……、建築法に依つて白蟻の憂鬱からは守られたとは云へ、その起き伏しとそれを取巻く工藝品等が無理な挑戦を自然との間に續けてゐる無能さは……。

此の様な事が日常の目に觸れてくる一寸した物、物にも感ぜられて、私には何れの一個も臺灣工藝の本物として遽には納得出來ぬものであつた。過ぎ去つた或る時に、又或る所では持ち得たであらう個々には美しい此れ等の工藝も、今此の土地での寄合には尙生活の全領域からはその間に均衡に似たものを獲得出來ず、全く調和ある環境を出現し得ないで、或る明け暮れに不圖した侘びしさを覺へしめるものであらう。

我が國土に於けるあらゆる環境の中では、政治、經濟、文化の全ての面からそれが日本の構成區域として發洩とした姿に於て認識され、その造型意志も又一貫の民族の理念の内を把握され、貫かれねばならない。如何なる邊土と云へども所謂殖民地的な我儘、一國の造型精神から遊離し、若しくは持遊んだものであるべきではない。工藝は其處の生活の全領域の性格を確立し乍ら、環境を醇化し、山の姿、水の姿、月の光、椰子の葉影、自らなる日本として捉へ來らねばならないものなのである。

今や臺灣は、其處から扇狀に擴がる廣大な

(一七七頁より)

他落花生・豆・煙草等を産する。畜産―水牛・黄牛・豚等がある。水産―西部に天日製鹽が行はれる。

## 林業

全土の七割は林野である。蕃地の森林は昔ながらの原生林であるが、行政區域に屬するものは、濫伐の結果その六割は無立木地である。統治以來總督府は造林に着手し、銳意林政の振興に努めて効果を擧げてゐる。従つて林産物は少く、たゞ船艦用材、大建築用材等の長大通直材(檜・紅檜等)はこれを阿里山・八仙・大平山等に求め、その需要は年々増加し、内地の缺乏を充すに資してゐる。をほ樟樹は丘陵地に多く、これより製造される樟腦は世界需要の大半を供給し得るほどである。

## 鑛業

石炭・金鑛・銅鑛以外は事業として見るべきものはないが、近年金の増産は著しいものがある。石炭は北部と中部に産する。

## 工業

南方に對してはその要目となり、北方本土に對しては樞要の中樞となり、その産業體制も農から工に重點の移動等、國家の臺灣に望む要請は益々重大の度を加へ來つた秋、その造型性格には、北南併せ呑む複雑、愉快なる課題に當面するに至つたと考へられる。從來見られた經濟、文化、その造型の全てが一樣に北を矢印としてゐたかの如き事等も此の際既に修正せられた事であらう。

幸ひにして、島内の種々な生活様相とその工藝、生産技術は今後のこうした臺灣の性格付けとなる本物の臺灣工藝誕生の爲には極めて豊富に、興味あり、又貴重なる資料の多數を藏してをり、且て積木の思ひ出の中に住み暮した佗びしさから、聽ては太々しく根を張つた生活の造型を持ち得よう事が期待される。

臺灣を考へ、尙より南方を思ふとき、一層多くの課題が待つてゐるのを知る。その土地では假りに一夜を凌ぐ小屋にもせよ、一飯を盛る椀皿にもせよ、その造型性格とそこに出現される環境は何處までも發展的であり偉大なる日本のかたちづくりの一齣であり度いものである。一つの工藝品の在方が日本の或ひ

は大東亞の生活構成として全體から捕へられる事無しに、唯に美しいといふ事だけで、その生活文化の全貌をも感傷の中に眺めやる事の過ちを極力に避け、何處までも東亞共榮の生活の中にその土地の本物を探つてゆき度いものである。

(筆者は東京美術學校圖案部囑託)

(一九五頁より)

かうした臺灣の工業に従事する職工について面白い話を聞いたのであるが本島人と内地人との作業能率上適性温度を調べて見ると前者は二十三度半、後者は十九度半と云ふ差異を認めるさうである。私等も七月の眞夏の渡臺で朝八時から午後四時迄の強行講習一週間には相當にこたへもし、どうも日中街上の歩行の際の暑さにはすつかり度臍を抜かれて了つた。どうしても適性温度の様な氣がしないところやつぱり内地人なのだらう。

附記 參考文獻。本多修氏著臺灣の民家と土角造

り、統計數字は昭和十三年度

(筆者は當所關西支所長)

主なものは砂糖・茶・酒精・鳳梨罐詰等である。近年日月潭を利用する電力事業が發展し、アルミニウム製錬等の工業が勃興しつつある。砂糖一領有以來製糖事業に主力を注いだ結果、甘蔗作付面積の擴張、品種の改善、栽培方法の改良及び技術並びに設備の向上によつて大飛躍を遂げ、今や吾が國は自給自足の域に達し、昭和十四年の産額は二千三百六十四萬五千擔に上り、本島貿易の大宗となつた。なほ砂糖原料による酒精、特に無水酒精工業も發展しつつある。茶・ウーロン茶と包種茶とで、共に海外に輸出される。包種茶は花香茶とも稱し、香氣高く、南洋一帯に歡迎され、ジャワ・クイを主な販路としてゐる。紅茶も著しく改善せられ輸出量が増した。その他酒精・鳳梨罐詰・鐵工品工業等の外にバガスバルブ工業が新に興つた。

## 貿易

大部分内地との移出入で、毎年出超を續けてゐる。輸移出の主なものは砂糖・米・鐵・バナ、・パイナップル・酒精・樟腦・茶等で輸移入の主なものは絹織物及び綿織物・硫